現場のリーダーではなく、時代の指導者たれ！

次の時代の指導者(人物)になるための“大局観”習得講座

偉人が学んだ温故知新を大所･高所から学ぶ！

◆技術や営業能力の高さ、会社の肩書き(役職)だけでは“人”はついてこない。
◆指導者としての絶対(根本)的要素は、“人徳･人望”の有無なり。
◆ゆえに、覇者の論理ではなく、王者の論理(帝王学)を学ぶべし。

大局観とは！

後継者や次の時代を担う世代に足りないことの一つが“大局観”なり！

◆“指導者(真のリーダー)”の絶対条件は、“大局観”の持ち主であることです。
◆事が起こった時、どの方向へ行けば会社が生き残れるのか、これがわかる能力が不可欠となります。
◆あなたが“指導者”を目指すなら、まず“組織における指導者とは何か、その役割とは何か”を知らなければなりません。会社が危機的状況の時、“どの方向に行ったらいいのかを見極め、その方向に進ませるのが、指導者の役割“です。
◆逆に、何の問題も起こっていなければ、極端には指導者はいなくても大丈夫なのです。
◆しかし、会社の将来に関わる重大な決定をする段になったら、指導者がいなければ何も始まりません。しかも、単にいればいいということではなく、そこで正しい判断を下せないと、組織は機能不全を起こし、従業員が大変な不安と不利益を被ることになります。
◆平時に、会社の肩書き(役職)だけで指導者らしく振る舞っていても、有事に存在感を示せないようでは、その人は本当の指導者ではありません。
◆事が起こった時、あるべき方向に進むことがわかる能力、これが“大局観”です。
◆この“大局観”は、どうやって身につければいいのか。それは、“大所･高所”から事を見ること。これが“大局観の本質”です。
◆大局観を習得するためには、視線を高くし、かつ視野を広げることが必要不可欠です。そして、その物事の直接的な対象から離れなければ、その本質は見えてきません。そのためには、“歴史を知ること”です。
◆歴史を遡(さかのぼ)っていくと、いま起こっている出来事と同じような事象を必ず見つけることができます。
◆当時の人は、その事象にどのように対処し、その結果、事態がどのように推移したのかがわかるので、それらを参考にして、現在直面している事象の正しい判断方法を導き出すことができるのです。

事の外に立ちて、事の内に屈するべからず！

カリキュラム

はじめに

【擬対策】　明君と賢臣は善悪正邪の根本なり、人は明君と賢臣を見ることで従う
【理財論】　事の外に立ちて、事の内に屈せず

第１部　我が国の技術大国の土台を創った“職人(技術者)たち”

～ 日本人としての矜持(誇り)の再認識＜その１＞ ～

【確認＆検討項目】　“何”を残し、“何”を変えるべきか！

１．我が国の造船技術力	明治 150 年の“正”の遺産
２．我が国の中小企業の技術力	伝統と伝承(技術の“何”を残し、“何”を変えるべきか)
３．戦前と戦後の日本人ノーベル賞	戦前に、日本人を受賞させない理由がある

第２部　我が国の根本土台を揺るがす現象と“問題の本質”

～ 明治から 150 年、失われた正道教育(負の遺産) ～

【確認＆検討項目】　近年の“生死関頭”に立っていることの本質

１．近年の企業不祥事の現象	明治 150 年の“負”の遺産の本質
２．近年の公務員不祥事の現象	同　上
３．安全と安心、信用と信頼	安全基準だけでは安心できない
４．“人”としての本質的要素と付属的要素	法律の制定･強化だけでは、根本解決できない
５．今日の日本における“人”の根本問題	習得と修得、養成と育成の違い

第３部　我が国の伝統･文化と日本人の精神基盤“道”

～ 我が国の基本と、人として生きることの美学 ～

【確認＆検討項目】　“武士と志士”、“武士道と現代の恥”の違い

１．我が国の伝統と文化	“和”の本質／和を以て貴しと為す
２．日本人の精神基盤“道”	宗教ではなく、“道”の教えから精神的高さがある
３．論語と武士道の精神	“恥を知る”を根底に置いた武士道の精神
４．人間の要素＝性格･能力･行儀(躾･慣習)	“躾”の意義は、良い習慣を養うこと
５．江戸時代における武士の幼少期教育	ならぬことはならぬものなり(什の掟)／郷中教育
６．江戸時代における“武士”の教育(藩校)	硬直した学問 ⇒ 現実生活で役に立たない
７．幕末における“志士”の教育(私塾)	実学(実戦)重視 ⇒ 知行合一

第４部　我が国の経済大国の土台を創った“商人たち(商人道)”

～ 日本人としての矜持＜その２＞と日本的経営の原点 ～

【確認＆検討項目】　“武士道”と“商人道”の根本的な違い

１．時代を生き抜いた我が国の商人の変遷	政商(権力者と結託した商人)の歴史
２．現代的商人の登場と日本的経営の原点	富の主は、天下の人々なり
３．本質(基)：人としての道理を知るべし	武士道と共通した、人としての根本精神
４．本質(基)：商人の本分(理)を守るべし	子孫よ、先祖の財産はしばらく預かるに同じ
５．本質(基)に準ずること	正道商いをせよ／本業に徹せよ
６．商家の後継者＆奉公人教育	心得を最初に学び、技術は後から付いてくる

第５部　我が国の社会問題と日本再興戦略(アベノミクス)の“過不及”

～ 自身が生涯をかけて成すことの志と覚悟 ～

【確認＆検討項目】　“政治”と“政(まつりごと)”の根本的な違い

１．幕政＆藩政改革	事の外に立ちて、事の内に屈せず
２．世界共通のインフラとキーワード	エネルギー･水･医療／安全安心･環境･健康
３．近年の我が国特有の課題	労働力不足･地域経済の衰退･社会経費の増大など
４．日本再興戦略(アベノミクス)	政治と政(まつりごと)／対処療法と根本療法
５．地域(地方)活性化への取組みと課題	行政の役割は“義”、民間の役割は“利”

第６部　日本人が重視する指導者の“資質”と“人物像”

～ 自身が目指すべき人物像と修養(学問修得)の自覚 ～

【確認＆検討項目】　次の時代の指導者になるための修養方法

１．100 年企業に学ぶ	会社のマインドを学ばせることが最初なり
２．我が国の偉人に学ぶ＜戦国期(軍師)編＞	竹中半兵衛･黒田官兵衛･直江兼続など
３．　同　　上　＜江戸期(藩政改革者)編＞	山田方谷･河井継之助･二宮尊徳など
４．　同　　上　＜幕末期(志士)編＞	吉田松陰･勝海舟など
５．　同　　上　＜明治期(事業家)編＞	渋沢栄一･小林一三など
６．指導者としての絶対的３要素	立志･大志／人物(人徳･人望･人格)／健康(医食同源)

第７部　自身がめざす指導者(将来)像

物事を一面ではなく、多面的･全面的に捉えられる思考 ＝ 大局観

技術大国

≪明治 150 年の“ 正 ”の遺産≫

土台を創ったのは、明治(1868 年以降)創業の職人(技術者)たち。

職人魂(製造業の 100 年企業)

明治 150 年の“ 負 ”の遺産

文明(革新)

一等国

≪日本再興戦略の過不及≫

一等国とは、この国に生まれて良かったと思うこと。

士は、農工商の利で成り立つ

地域活性化は、民間が主役

政治(正道)

自身がめざす人物像

軍師 ⇒ トップの指南役

参謀 ⇒ 戦略の策定･指揮

文化(伝統)

経済(繁栄)

武士道

≪日本人の倫理･道徳≫

現代日本人の精神的思考の“ 祖 ”といえる、徳川時代の武士の守るべき“ 掟 ”

日本人の精神基盤“ 道 ”

日本人としての“ 矜持(きょうじ) ”

商人道

≪日本的経営の原点≫

“ 経済大国 ”の土台を創ったのは、徳川幕府の三大改革を乗り越えた商人たち

商人魂(販売業の 300 年企業)

日本的経営 ⇒ 日本式経営

大局観習得講座の要項

≪開催≫ ◆平日コース：３時間×４回 ◆休日コース：６時間×２回

≪定員≫ 少人数制（講義中心ではなく、議論･検討中心）※事前必読資料をお渡しします。